

第9節 植物

都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺には植物の重要な種及び群落が存在し、土地又は工作物の存在及び供用として道路（地表式、掘割式、嵩上式）の存在に係る影響、工事の実施に伴う工事施工ヤードの設置に係る影響、工事用道路等の設置に係る影響が考えられるため、植物の調査、予測及び評価を行った。

9.1 道路（地表式、掘割式、嵩上式）の存在、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置に係る植物

9.1.1 調査結果の概要

1) 調査した情報

調査項目は以下のとおりとし、植物相、植生の分布状況、重要な種及び群落の状況等について調査した。

なお、カリガネソウ及びラン科植物については、盗掘によりその生育に悪影響が生じるおそれがあるため、本書では具体的な地名、確認位置が特定されないような記載とした。

- ・ 種子植物及びシダ植物に係る植物相及び植生の状況
（以下、「植物相及び植生の状況」とする）
- ・ 植物の重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況
（以下、「重要な種及び群落の状況」とする）

2) 調査の手法

(1) 植物相及び植生の状況

植物相及び植生の状況の調査は、表8-9-1に示す手法により現地調査を実施した。

表8-9-1 調査手法

項目	調査手法	
植物相	直接観察及び採取	調査地域内を踏査し、確認された種を記録した。 現地で種名の確認が困難な場合は持ち帰って標本を作製し、同定した。
植物群落	植生調査 (植物社会学的手法)	調査地域内を相観により区分し、主要な群落毎に方形枠を1～数カ所設定して、植物社会学的手法（Braun-Blanquet：1964）による植生調査を行った。 植生調査では、植物種の出現状況（被度・群度）、階層構造、優占種等を記録し、植物群落を区分した。

■用語の説明■

被度：種別の植被率を階級で示したもの（階級区分は6階級）。コドラート（方形区）内において、その植物がその層でどれだけの面積を占めているかを示す。
群度：種別の生育状態を階級で示したもの（階級区分は5階級）。コドラート（方形区）内において、その植物がどのような状態で群落をつくっているか、あるいは単独で存在するかなどを示す。
階層構造：植生の垂直断面の構造。森林は「高木層、亜高木層、低木層、草本層」で構成されている。

(2) 重要な種及び群落の状況

a) 重要な種及び群落の生態

重要な種及び群落の生態については、図鑑、研究論文、その他の資料の収集により整理した。

b) 重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況については、表8-9-2に示す選定基準に該当する種及び群落について、「植物相及び植生の状況」と併せて行った。

表8-9-2 重要な種の選定基準

番号	文献及び法律		選定基準となる区分
	文献名又は法律名	発行等	
1	文化財保護法	1950年 法律第214号	特：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物 県：山梨県指定天然記念物 市：市町村指定天然記念物
2	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	1992年 法律第75号	内：国内希少野生動植物種 際：国際希少野生動植物種
3	環境省レッドリスト 一維管束植物一	2007年 環境省	EX：絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足
4	我が国における保護上重要な植物種の現状	1989年 (財)日本自然保護協会	EN：絶滅寸前 V：危険 U：現状不明
5	山梨県レッドデータブック 山梨県の絶滅の恐れのある野生生物	2005年 山梨県	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 N：要注目種
6	山梨県希少野生動植物の保護に関する条例	2007年 山梨県条例第34号	指：指定希少野生動植物種 特：特定希少野生動植物種
7	学識経験者選定種	—	学識経験者意見により当該地域において重要と判断された種
8	第4回自然環境保全基礎調査 「日本の巨樹・巨木林（甲信越・北陸版）」	1991年 環境庁	掲載されている巨樹・巨木
9	第3回自然環境保全基礎調査 現存植生図	1989年 環境庁	【9】：植生自然度9該当群落 【10】：植生自然度10該当群落
10	第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図	1989年 環境庁	
11	植物群落レッドデータブック	1996年 我が国における保護上重要な植物種及び植物群落研究委員会植物群落分科会	【1】：要注意 【2】：破壊の危惧
12	第4回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図	1995年 環境庁	

3) 調査地域

調査地域は、都市計画対象道路事業実施区域端部から概ね250mの範囲を目安として、植物の分布域を把握するため適宜拡大した。

4) 調査地点

(1) 調査経路

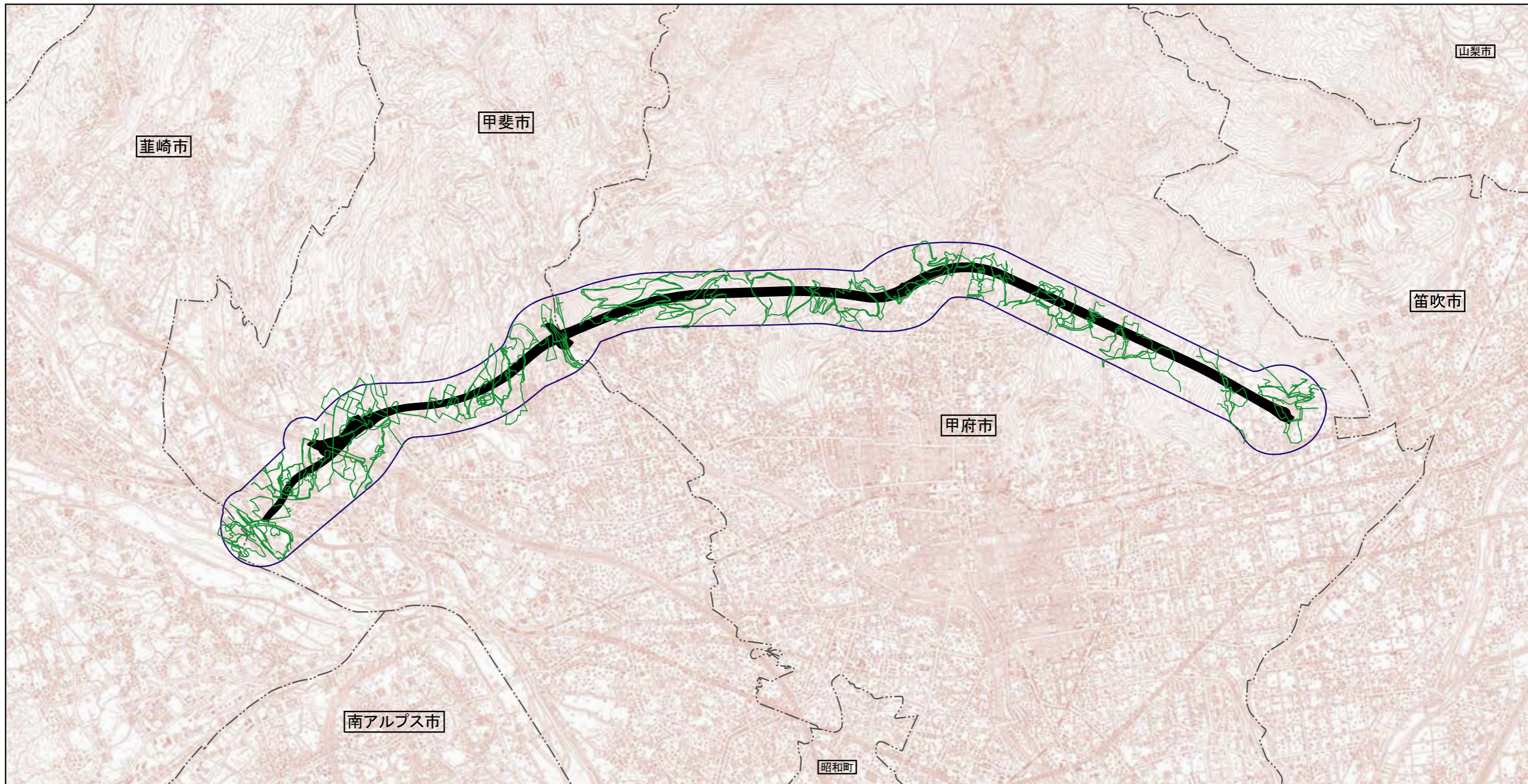
調査経路は図8-9-1に示すとおりである。

調査経路は、植物の生態的な特性、周辺の地形状況、植生等を踏まえ、調査地域に生育する植物を効率よく把握できる経路を設定した。


(2) 調査地点

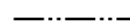


調査地点は図8-9-2に示すとおりである。

調査地点は、植物の生態的な特性、周辺の地形状況等を踏まえ、調査地域に分布する植物群落を的確に把握できる地点を設定した。



凡例

記号	名称
	踏査ルート

-  市町界
-  都市計画対象道路事業実施区域
-  調査地域

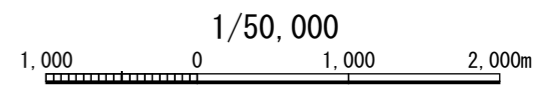
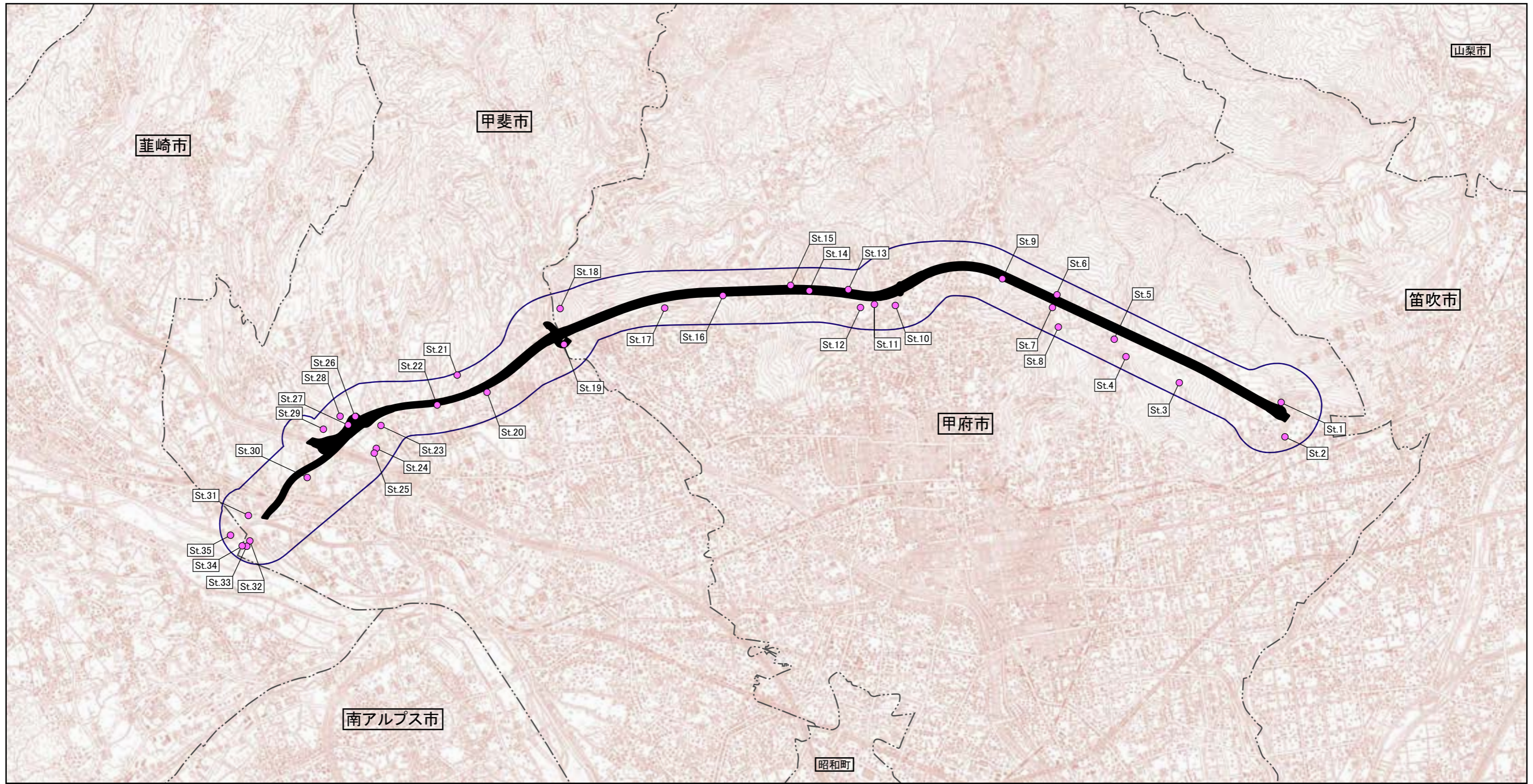


図8-9-1 植物相調査地点位置図



凡例

記号	名称
●	植生調査地点位置

- 市町界
- 都市計画対象道路事業実施区域
- 調査地域

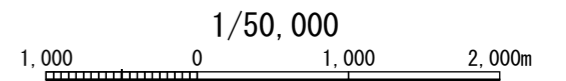


図8-9-2 植生調査地点位置図

5) 調査期間等

調査時期は、春・夏・秋季の3季とし、そこに生育する植物種及び群落を確認しやすい時期とした。

各項目の調査時期は表8-9-3に示すとおりである。

表8-9-3 調査時期

項目	調査手法	調査実施日
植物相	直接観察及び採取	春季：平成18年5月8日～5月11日 夏季：平成18年8月8日～8月11日 秋季：平成18年9月25日～9月29日
植物群落	植生調査 (植物社会学的手法)	春季：平成18年5月22日～5月24日 夏季：平成18年8月15日～8月18日 秋季：平成18年10月2日～10月5日

6) 調査結果

(1) 植物相

a) 植物相の状況

現地調査による植物相の確認種数は表8-9-4に示すとおりである。現地調査において139科892種の生育が確認された。

表8-9-4 植物相の現地調査で確認された種数

調査時期	確認種数
春 季	110科518種
夏 季	125科622種
秋 季	130科676種
総 計	139科892種

調査地域の主な生育環境は、雑木林、植林等の樹林、放棄果樹園、水田の土手等の草地、荒川等に広がる水辺、畑、水田等の耕作地のほか、市街地が挙げられる。

植物相の現地調査結果の概要は表8-9-5に示すとおりである。

表8-9-5 植物相現地調査結果の概要

主な生育環境	主な確認種
樹 林	クヌギ、コナラ、シラカシ、アカマツ、スギ、ヒノキ、コマユミ、ムラサキシキブ、ガマズミ、イカリソウ、シラヤマギク、コウヤボウキ、チゴユリ、シュンラン等
草 地	クズ、ヨモギ、ススキ、ヘビイチゴ、オオヂシバリ、チガヤ、キンエノコロ、アゼスゲ等
水 辺	ツルヨシ、カワヤナギ、タチヤナギ、ヤナギタデ、オオミゾソバ、ガマ等
耕作地	ナズナ、ヒルガオ、ホトケノザ、トキワハゼ、セリ、コナギ、タイヌビエ、アゼガヤツリ等
市街地	スギナ、ミチヤナギ、ツメクサ、カタバミ、ノゲシ、メヒシバ等

b) 重要な植物

現地調査により確認された重要な植物種は21科32種、重要な植物（巨樹・巨木）は6件（4箇所7本）であった。文献及び現地で確認された重要な植物種・重要な植物（巨樹・巨木）とその選定理由は表8-9-6～表8-9-7に、確認位置は図8-9-3に示すとおりである。

表8-9-6(1) 重要な植物種

分類	科名	種名	現地 確認	文献 確認	選定基準							
					1	2	3	4	5	6	7	
シダ 植物	ハナヤスリ	コハナヤスリ	●								○	
		ヒロハハナヤスリ	●						CR			
	オシダ	ハカタシダ	●						VU			
		イワヘゴ	●						CR			
	ヒメシダ	ハシゴシダ	●						VU			
	メシダ	ウサギシダ		●					EN			
	デンジソウ	デンジソウ		●			VU	V	CR			
サンショウモ	サンショウモ	●	●			NT		NT				
裸子 植物	スギ	スギ		●					DD			
離弁 花類	ブナ	スダジイ		●					VU			
	クワ	カジノキ		●					DD			
	モクレン	サネカズラ		●					VU			
	ヤドリギ	マツグミ	●						EN			
	キンポウゲ	レンゲショウマ		●								○
		カザグルマ	●	●			NT	V	EN			
		オキナグサ		●			VU	V	VU			
	ケシ	ヤマブキソウ		●					VU			
	ベンケイソウ	ツメレンゲ	●	●			NT	V	VU			
	マメ	レンリソウ		●						DD		
		イヌハギ	●	●				NT		NT		
	トウダイグサ	ヒトツバハギ	●	●					VU			
	ミカン	カラスザンショウ		●						VU		
		フユザンショウ		●						VU		
	ミツバウツギ	ゴンズイ		●					EN			
	スマレ	ヒメスマレサイシン		●					NT			
	ミソハギ	ミズマツバ	●				VU					
	アカバナ	ウスゲチョウジタデ	●				NT					
	合弁 花類	ツツジ	ダイセンミツバツツジ	●						VU		
ガガイモ		フナバラソウ	●						EN			
		スズサイコ	●				VU		VU			
ヒルガオ		マメダオシ		●			CR		EN			
クマツヅラ		カリガネソウ	●						EN	指		
シソ		メハジキ	●							NT		
		キセワタ	●				VU		EN			
		ミゾコウジュ	●	●			NT	V	DD			
ゴマノハグサ		イヌノフグリ	● ^{注)}	●			VU		EN			
		カワヂシャ	●	●			NT		NT			
キキョウ		キキョウ	●	●			VU		NT			
キク		ヒメシオン	●									○
		タウコギ		●						DD		
		タカアザミ	●							VU		
		フジバカマ		●			NT	EN	EW			
		アキノハハコグサ		●			VU		DD			
		タカサゴソウ		●			VU		CR			

表8-9-6(2) 重要な植物種

分類	科名	種名	現地 確認	文献 確認	選定基準						
					1	2	3	4	5	6	7
合弁 花類	キク	カワラニガナ	●				VU		VU		
		オナモミ		●			VU		NT		
単子 葉植 物	オモダカ	ヘラオモダカ		●					NT		
	トチカガミ	ミズオオバコ		●			VU		EN		
		ヒルムシロ	イトモ		●			NT		EN	
	ユリ	ヤマユリ	●	●					NT		
		ササユリ		●					CR		
	ヒガンバナ	キツネノカミソリ		●					NT		
	ミズアオイ	ミズアオイ		●			NT	V			
	イネ	アワガエリ		●						DD	
		ヒエガエリ	●	●						DD	
		ハマヒエガエリ		●						DD	
		マコモ	●	●						EN	
	カヤツリグサ	ハマスゲ		●						EN	
		カンガレイ		●						VU	
	ラン	エビネ	●	●				NT	V	VU	
ギンラン		●	●						VU		
キンラン		●	●				VU		EN		
クマガイソウ			●				VU	V	EN		
38科		63種	32種	46種	0種	0種	26種	9種	57種	1種	3種

注) イヌノフグリは早春調査における生態系調査でのみ確認された種。

表8-9-7(1) 重要な植物（巨樹・巨木）

種名	現地 確認	文献 確認	選定基準								
			1	2	3	4	5	6	7	8	
岩窪のヤツブサウメ		●	県								
塩部寿のフジ		●	県								○
塩沢寺の舞鶴のマツ		●	県								
竜地の楊子梅		●	県								
永岳寺の大カシ		●	県								
苗敷山のアスナロ		●	県								
東光寺町稲荷神社のサカキ		●	市								○
玄法院のイチョウ		●	市								
法泉寺のクロマツ		●	市								○
上石田のサイカチ		●	市								○
シダレクロマツ		●	市								
寺平のオニグルミ		●	市								○
普禅院のカヤ		●	市								○
宝珠寺のヒイラギ		●	市								○
龍蔵院のムクロジ		●	市								
妙善寺のカヤ	●	●	市								
日之城の大ナシ		●	市								○
若宮八幡宮鶴亀の松		●	市								○
宮久保のクヌギ		●	市								○
勝手神社のケヤキ		●	市								○
苗敷山の高野マキ		●	市								
松本のコノテガシラ		●	市								○
別田のゴヨウマツ		●	市								
山梨岡神社のフジ		●	市								
野牛島のビャクシン		●	市								

表8-9-7(2) 重要な植物（巨樹・巨木）

種名	現地 確認	文献 確認	選定基準								
			1	2	3	4	5	6	7	8	
能蔵のエドヒガンザクラ		●	市								
法久寺のコツブガヤ		●	市								
法久寺のカシワ		●	市								
牧洞寺のモミ		●	市								
善光寺のケヤキ（1）		●									○
善光寺のケヤキ（2）		●									○
要害山のシダレアカマツ		●									○
日吉神社のナシ		●									○
白山神社のヒノキ		●									○
武田神社のケヤキ（1）		●									○
武田神社のケヤキ（2）		●									○
信虎公墓所前のスギ		●									○
大泉寺のスギ		●									○
八幡宮のケヤキ（1）		●									○
八幡宮のケヤキ（2）		●									○
愛宕神社のカヤ		●									○
中央三丁目のオガタマノキ		●									○
舞鶴公園のエノキ		●									○
舞鶴公園のケヤキ		●									○
山梨大学構内のモミジバスズカケノキ		●									○
相沢家のケヤキ		●									○
桂田家のケヤキ		●									○
塚原のモミ	●	●									○
高畑のシンジュ		●									○
天津司神社のケヤキ		●									○
法泉寺のカヤ		●									○
朝日小学校のバッコヤナギ		●									○
朝日小学校のケヤキ		●									○
原山神社のエノキ		●									○
西中学校のシンジュ		●									○
飯田のエノキ（1）		●									○
飯田のエノキ（2）		●									○
湯谷神社のモミ		●									○
湯谷神社のケヤキ		●									○
千塚三丁目のケヤキ		●									○
千塚小学校のケヤキ（1）		●									○
千塚小学校のケヤキ（2）		●									○
千塚四丁目のケヤキ		●									○
平瀬笠井宅のケヤキ		●									○
平瀬のヒマラヤスギ		●									○
天沢寺のスギ		●									○
牛句横山家のケヤキ（1）	●	●									○
牛句横山家のケヤキ（2）	●	●									○
横山本家のイチョウ	●	●									○
敷島八幡神社のケヤキ		●									○
しきしま幼稚園のケヤキ		●									○
大下条三井家のケヤキ		●									○
竜地のエゾエノキ		●									○

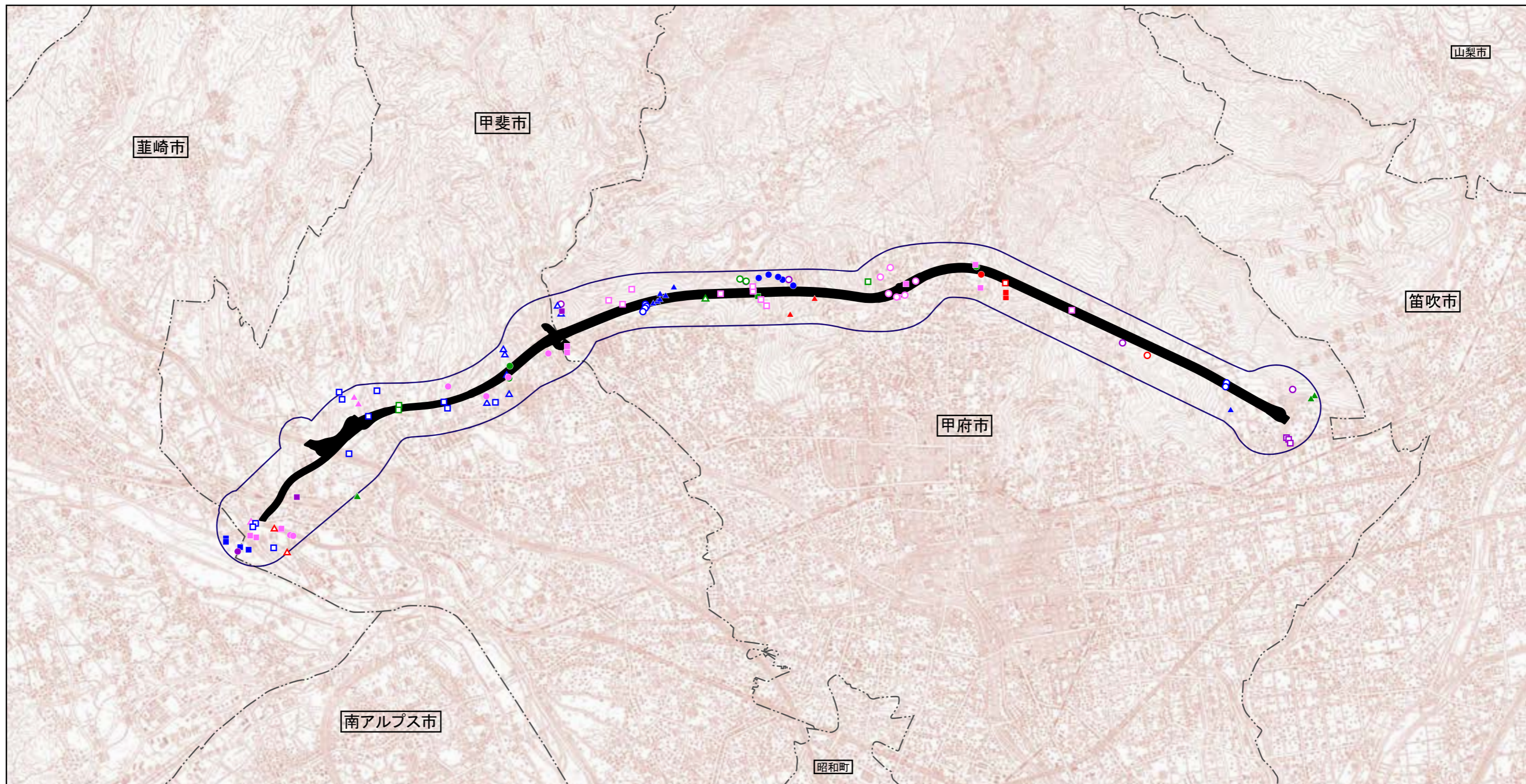
表8-9-7(3) 重要な植物（巨樹・巨木）

名称	現地 確認	文献 確認	選定基準								
			1	2	3	4	5	6	7	8	
竜地井上宅のケヤキ		●									○
船形神社のケヤキ	●	●									○
金剛地のケヤキ		●									○
南宮神社のスギ		●									○
永岳寺のシラカシ		●									○
大公寺のスギ		●									○
苗敷山のコウヤマキ		●									○
上条南割のアスナロ		●									○
勝手神社のエノキ		●									○
宮久保のヤマトアオダモ		●									○
三之蔵のクヌギ		●									○
84件	6件	84件	29件								67件

注) 文献確認種のうち、調査地域内に位置するものについて、現地調査にて確認した。

【選定基準】

- 選定基準 1 文化財保護法（1995年 法律第214号）
特：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物 県：山梨県指定天然記念物
市：市町村指定天然記念物
- 選定基準 2 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（1992年 法律第75号）
内：国内希少野生動植物種 際：国際希少野生動植物種
- 選定基準 3 環境省レッドリスト 維管束植物（2007年 環境省）
EX：絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類
NT：準絶滅危惧 DD：情報不足
- 選定基準 4 我が国における保護上重要な植物種の現状（1989年 （財）日本自然保護協会）
EN：絶滅寸前 V：危険 U：現状不明
- 選定基準 5 山梨県レッドデータブック 山梨県の絶滅の恐れのある野生生物（平成17年 山梨県）
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類
NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 N：要注目種
- 選定基準 6 山梨県希少野生動植物の保護に関する条例（2007年 山梨県条例第34号）
指：指定希少野生動植物種 特：特定希少野生動植物種
- 選定基準 7 学識経験者選定種
学識経験者意見により当該地域において重要と判断された種
- 選定基準 8 注) 第4回自然環境保全基礎調査「日本の巨樹・巨木林（甲信越・北陸版）」
（1991年 環境庁）に掲載されている巨樹・巨木
注) 巨樹・巨木のみの選定基準



凡例

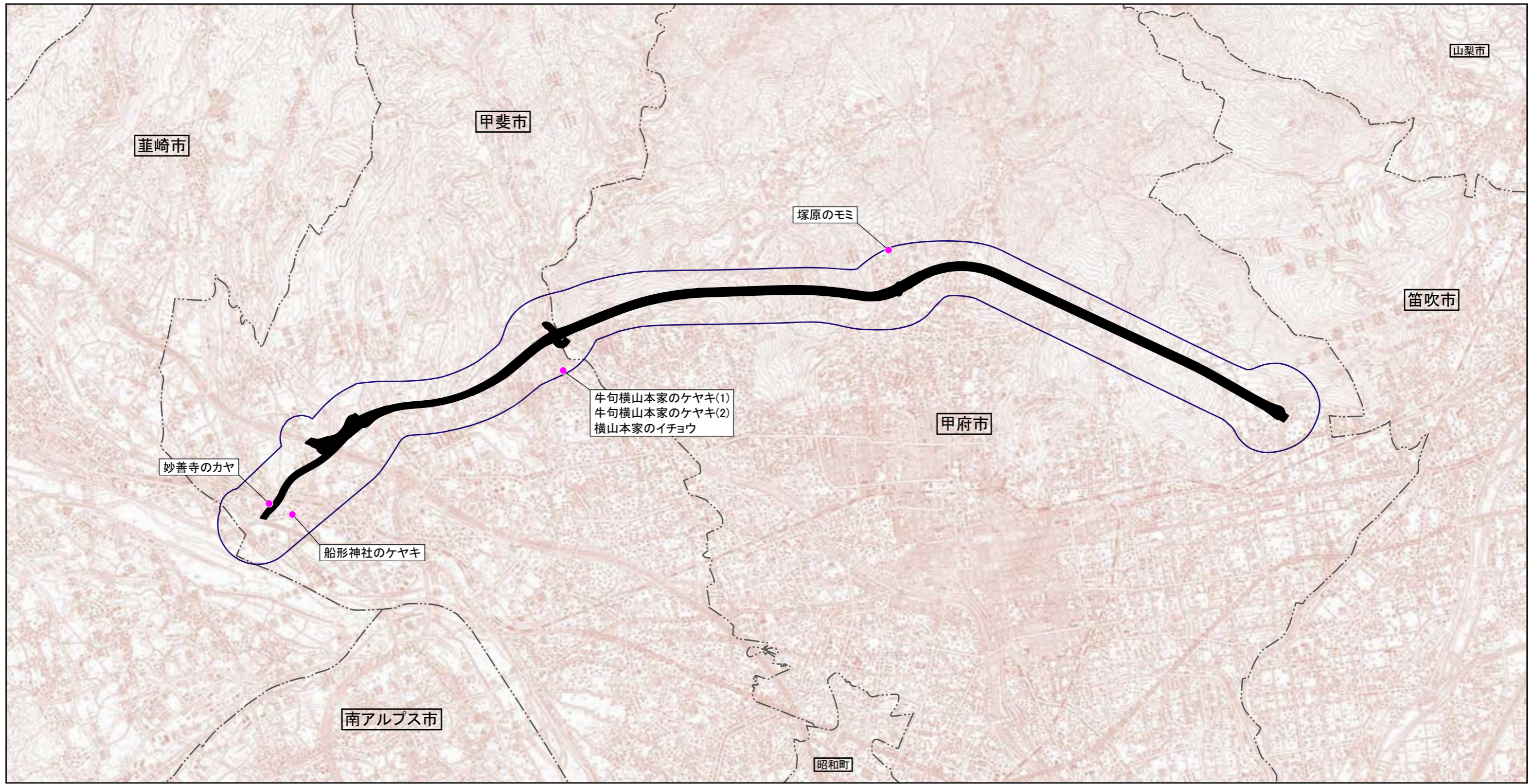
記号	名称	記号	名称	記号	名称
●	コハナヤスリ	●	ウスゲチョウジタデ	●	カワラニガナ
○	ヒロハハナヤスリ	○	ダイセンミツバツツジ	○	ヤマユリ
■	ハカタシダ	■	フナバラソウ	■	ヒエガエリ
□	イワヘゴ	□	スズサイコ	□	マコモ
▲	ハシゴシダ	▲	メハジキ		
△	サンショウモ	△	キセワタ		
●	マツグミ	●	ミゾコウジュ		
○	カザグルマ	○	イヌノフグリ		
■	ツメレンゲ	■	カワヂシャ		
□	イヌハギ	□	キキョウ		
▲	ヒトツバハギ	▲	ヒメシオン		
△	ミズマツバ	△	タカアザミ		

- 市町界
- 都市計画対象道路事業実施区域
- 調査地域

1/50,000
 1,000 0 1,000 2,000m



図8-9-3(1) 重要な植物確認位置図



凡例

記号	名称
●	確認位置

- 市町界
- 都市計画対象道路事業実施区域
- 調査地域

1/50,000
1,000 0 1,000 2,000m



図8-9-3(2) 重要な植物(巨樹・巨木)
確認位置図

(2) 植生

a) 植生の状況

植物群落の概要は表8-9-8に、現存植生図は図8-9-4に示すとおりである。現地調査において、合計26の植物群落及び11の土地利用等（開放水面含む）が確認された。

調査地域は、古くから薪炭林等として利用されてきた二次林や、耕作地、市街地、改修された河川等、人為的な影響を受けた代償植生となっている。

自然植生は、甲府市湯村の尾根部に分布するアカマツ群落が唯一挙げられる。

表8-9-8(1) 植物群落の概要

群落名	主な構成種	分布状況等
アカマツ群落 (自然林)	アカマツ、ネズ、リョウブ、ネジキ、マルバアオダモ	甲府市湯村の尾根筋の露岩に局所的に分布
ヤナギ低木林	タチヤナギ、カナムグラ、セリ、カキドオシ、ヤワラスゲ	甲斐市岩森の坊沢川堰堤上に堆積した砂地の水辺近くに小面積で成立
アラカシ群落	アラカシ、ヤブコウジ、ヤブラン、ジャノヒゲ、シュンラン	甲府市塚原町の西向き斜面中腹部に小面積で分布
ケヤキ群落	エノキ、ケヤキ、アケビ、ヤマブキ、ハナйкаダ、キヅタ、ナガバジャノヒゲ	甲府市岩窪町の山梨県林業技術センター周辺の谷部に局所的に分布
コナラ群落	クスギ、コナラ、ヤマコウバシ、カスミザクラ、ガマズミ、コウヤボウキ、アズマネザサ、タガネソウ	山地斜面や台地崖線斜面一帯を中心に広く分布
オニグルミ群落	オニグルミ、エノキ、アケビ、ドクダミ、ノイバラ、ヤブマメ、ジャノヒゲ、コチヂミザサ	甲斐市岩森の東川・坊沢川沿いの斜面に小面積で成立
ハリエンジュ群落	エノキ、ハリエンジュ、ツルヨシ、イチゴツナギ	甲府市山宮町の採石跡地、甲斐市の塩川の河原にまとまった群落が分布
シンジュ群落	エノキ、ヤマコウバシ、アケビ、ノイバラ、シンジュ、スイカズラ、アズマネザサ	甲斐市岩森の放棄された桑畑等の各所に成立
アカマツ群落 (二次林・植林)	アカマツ、カスミザクラ、マルバアオダモ、オケラ、コウヤボウキ、アズマネザサ	甲府市内を中心とする山地斜面の各所に広く分布
スギ・ヒノキ植林	オオバノイノモトソウ、タマアジサイ、ヒメワラビ、スギ、ヒノキ、クマワラビ、ハナйкаダ、コチヂミザサ	甲府市岩窪町の山梨県林業技術センター周辺の谷部や斜面にまとまって分布
竹林	マダケ、モウソウチク	川沿いや人家裏の斜面等をはじめとする各所に散見される

■用語の説明■

薪炭林：薪や木炭の原料の生産を目的とする森林。薪炭林は広葉樹などの二次林（代償植生）が主で、暖温帯ではシイ類・カシ類、冷温帯ではコナラ・ミズナラ・クスギ・アカマツなどが主な構成種である。薪炭の原料として10～30年ごとに伐採が繰返されてきた林で、里地・里山の中心的存在であり、人為的な管理（伐採頻度や下草刈り、落葉掃きなど）で維持されてきた。

代償植生：さまざまな人為的影響が加えられた後に成立した植生。農耕地や人工林などのほか、刈り取り・伐採などによって成立した里山や草原なども含まれる。人為的影響がなくなると、徐々に構成種が変化し、自然植生に向けて遷移する。

自然植生：人間によって伐採や植林などの手が加えられていない植生。代表的な自然植生は、関東以南の海岸や低山帯に成立するシイ・カシ・タブなどの常緑広葉樹林、関東以南の山地帯や本州北部・北海道の低山帯に成立するミズナラ・ブナを中心とする落葉広葉樹林、北海道の山地に成立するエゾマツ・トドマツの亜高山針葉樹林などである。

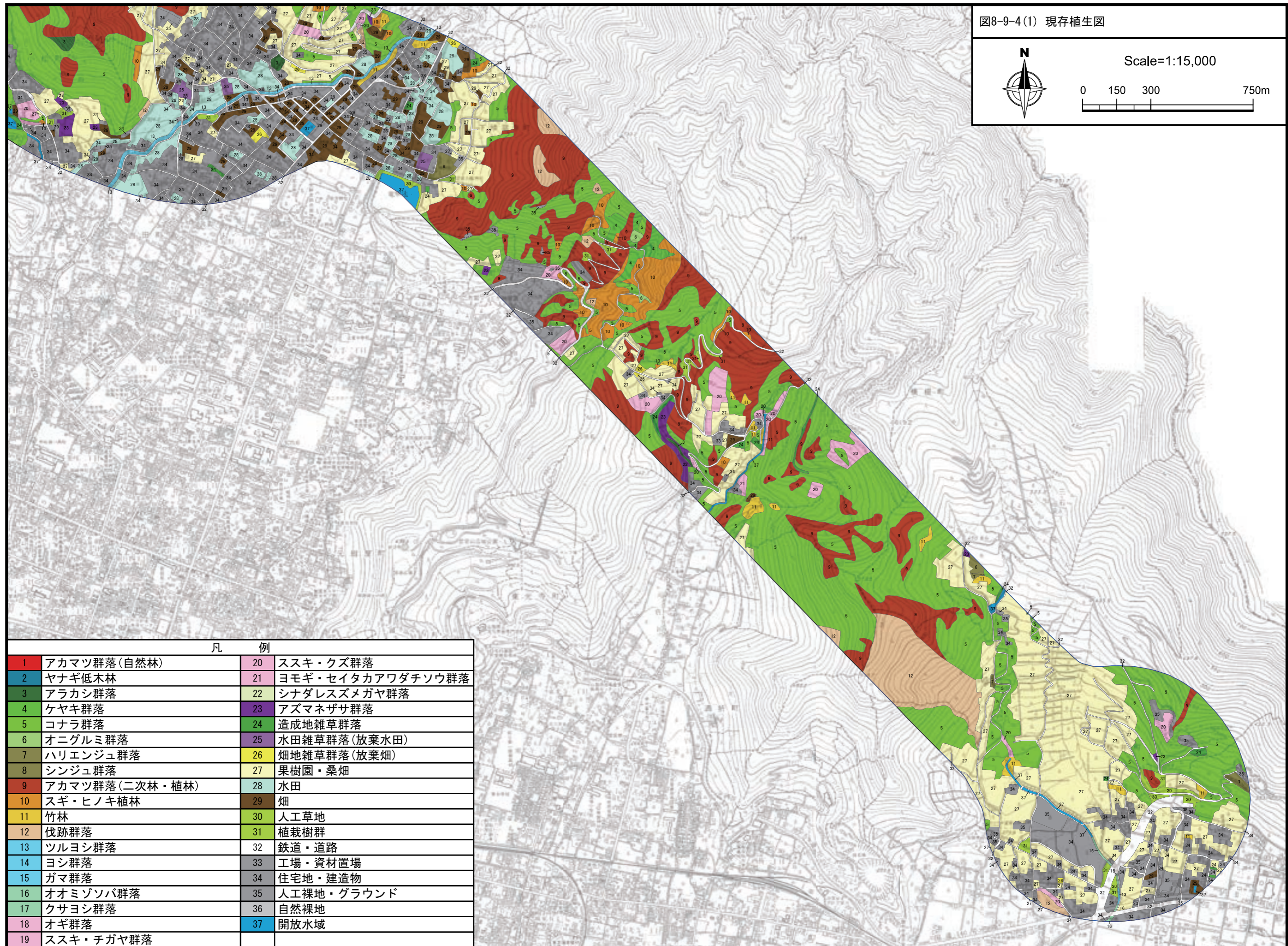
表8-9-8(2) 植物群落の概要

群落名	主な構成種	分布状況等
伐跡群落	コナラ、ヤマコウバシ、コゴメウツギ、ムラサキシキブ、オケラ、ヒヨドリバナ	甲府市羽黒町、湯村、及び横根町の斜面の伐採跡地を中心にまとまって分布
ツルヨシ群落	カナムグラ、ミゾソバ、ツルヨシ	甲府市古府中町、塚原町、小松町の相川、甲府市・甲斐市境の荒川、及び甲斐市宇津谷の塩川の各水辺に分布
ヨシ群落	ミゾソバ、チョウジタデ、コブナグサ、ヨシ	甲斐市岩森の水田脇等に小面積で成立
ガマ群落	ミゾソバ、セリ、コブナグサ、ヨシ、ヒメガマ、ガマ	甲斐市岩森の坊沢川堰堤上の水辺や水田脇等に小面積で分布
オオミゾソバ群落	オオミゾソバ	甲府市桜井町の十郎川の水辺に沿って分布
クサヨシ群落	カナムグラ、ギシギシ、クサヨシ	甲斐市岩森の坊沢川堰堤上の水辺付近や、宇津谷の塩川の水辺付近に分布
オギ群落	カナムグラ、ヨモギ、オギ	甲斐市岩森の東川沿いや、宇津谷の塩川高水敷等に分布
ススキ・チガヤ群落	カタバミ、エノキグサ、タチツボスミレ、チガヤ、ススキ、キンエノコロ	甲斐市宇津谷の塩川河川敷及び甲斐市大塚の水田沿いの土手に分布
ススキ・クズ群落	クズ、ヤエムグラ、アキノノゲシ、ススキ、アズマネザサ	放棄耕作地や採石跡地を中心とする各所に多く分布
ヨモギ・セイタカアワダチソウ群落	メマツヨイグサ、ガガイモ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、カモジグサ	放棄耕作地を中心とする各所に小面積で分布
シナダレスズメガヤ群落	テリハノイバラ、メドハギ、カワラヨモギ、オオキンケイギク、シナダレスズメガヤ	甲斐市宇津谷の釜無川左岸にまとまって分布
アズマネザサ群落	ヤマグワ、アオツツラフジ、ヤイトバナ、アズマネザサ	放棄果樹園や路傍、伐採跡地等を中心とする各所に小面積で分布
造成地雑草群落	メヒシバ、オヒシバ、エノコログサ	宅地造成地や路傍、放棄耕作地等を中心とする各所に小面積で散在
水田雑草群落 (放棄水田)	チョウジタデ、アゼナ、ムシクサ、オモダカ、コナギ、イヌビエ、タマガヤツリ、コゴメガヤツリ	低地や緩斜面に見られる水田周辺の各所に小面積で散在
畑地雑草群落 (放棄畑)	スベリヒユ、ガガイモ、コセンダングサ、エノコログサ	放棄畑や休耕畑を中心とする各所に小面積で散在

図8-9-4(1) 現存植生図



Scale=1:15,000



凡 例

1	アカマツ群落(自然林)	20	ススキ・クズ群落
2	ヤナギ低木林	21	ヨモギ・セイタカアワダチソウ群落
3	アラカシ群落	22	シナダレスズメガヤ群落
4	ケヤキ群落	23	アズマネザサ群落
5	コナラ群落	24	造成地雑草群落
6	オニグルミ群落	25	水田雑草群落(放棄水田)
7	ハリエンジュ群落	26	畑地雑草群落(放棄畑)
8	シンジュ群落	27	果樹園・桑畑
9	アカマツ群落(二次林・植林)	28	水田
10	スギ・ヒノキ植林	29	畑
11	竹林	30	人工草地
12	伐跡群落	31	植栽樹群
13	ツルヨシ群落	32	鉄道・道路
14	ヨシ群落	33	工場・資材置場
15	ガマ群落	34	住宅地・建造物
16	オオミソソバ群落	35	人工裸地・グラウンド
17	クサヨシ群落	36	自然裸地
18	オギ群落	37	開放水域
19	ススキ・チガヤ群落		